

二十



策下

卷右の初と日号入りきまると巻一より一ゆるわが書院の中  
みかこ文若葉あてしうとせはきまると上巻一と源氏の若中  
一歳二月のまことと上巻一あり月年九三月とあり上巻一と  
十二歳とあり中巻一とあり上巻一とあり中巻一とあり上巻一  
ゆる中巻一とあり年九とあり上巻一とあり月年九三月とあり  
あり一月のまことと上巻一とあり上巻一とあり上巻一とあり  
は初の中一とあり上巻一とあり上巻一とあり上巻一とあり上巻一  
とあり上巻一とあり上巻一とあり上巻一とあり上巻一とあり上巻一  
上七の十二とあり上巻一とあり上巻一とあり上巻一とあり上巻一  
ありとあり上巻一とあり上巻一とあり上巻一とあり上巻一とあり

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...

...の...  
...の...







くまのふか 雲は指程のぬまのま  
くまのふか 雲は指程のぬまのま  
のしほりく

あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま

大船の君も 一 雲は指程のぬまのま  
大船の君も 一 雲は指程のぬまのま  
大船の君も 一 雲は指程のぬまのま

いりちき宿中 一 雲は指程のぬまのま  
いりちき宿中 一 雲は指程のぬまのま  
いりちき宿中 一 雲は指程のぬまのま

あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま

あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま

あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま

あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま

あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま

あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま

あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま  
あゝるる宿中 一 雲は指程のぬまのま

















一巻の筆の流ありて一機ありて一を思ふなり又後くありて  
其の車とくして一統たるの車と一明なるを思ふなり  
邦より一源に此君の表の心は思ふなり

とてありて一まこと一邦人として一のまこと也

世及るじきありて一昭名入るなり

昭名の昭一昭名源の非れ

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

昭名源の昭名源と下れ心し

文時ハ  
聖廟ノ  
能ノ





我々もさういふも河ありてさやまうも一

下れよめいしーお原とんしけしつうう引しおまはけりも

あはれいれりてしーせんうのよーまおめあはれひり

しうあつれや一織て覆くんし一本をよて織てし用

まあしうまきのよーとらるんあはれおしむあつてし

本わつたの膳あれあはれとあくまもま理わつてま母

よの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

くもあはれいれりてしーあはれまの母

しひつてつるも一作者籍くしあまの母

籍くしあまの源もあまの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母

あまの母よまま母とーあつてつるもままへままの母







後の長きしころなり

身はらへし源の心とけり今と女三つは源の心

源の心とけり源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

女三つは源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

思きこく源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり

源の心とけり源の心とけり



あまのついでに源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す

源一源一の年を記す





かぐくはけ  
ふしとちかひととますりんと  
かぎに下りたすりた下りてとまれり  
早下  
あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて  
る  
ふしとちかひととますりんと  
かぎに下りたすりた下りてとまれり

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて

あらしとむしむる程に源九又天  
かたはと降りてきて



ちやうどいふはきんり道し達るるにちやうどいふはきんり世しきんり  
ふすかきんりいふり可思

あゝもろつと一曲をわきとく一四のまはり曲なり

ら母にこころゆも一日本見目福藤原佑世撰楽家廿三ア  
二百七卷 取經 一卷 取標 三卷 琴法 七卷 雜 琴取譜 一百九卷

兼馬 三卷 河標 三卷 琴用手法 一卷 雜 琴根 一卷 琴徳譜 一卷

師とてききとよしと云ふ人し習ひ曲とい高山流のまはり  
たり鐘子期と云者取らば号し師と云はれん入て多へしと  
山と入て多ま交りて多まはり即ち名えお後言ふ流のまはり  
家曲とい思はれぬし一源一列を習ひ流はれまはり

あゝこの人しと父の人しとよしと云ふし

あゝもろつと一曲をわきとく一四のまはり曲なり

ら母にこころゆも一日本見目福藤原佑世撰楽家廿三ア  
二百七卷 取經 一卷 取標 三卷 琴法 七卷 雜 琴取譜 一百九卷

兼馬 三卷 河標 三卷 琴用手法 一卷 雜 琴根 一卷 琴徳譜 一卷

師とてききとよしと云ふ人し習ひ曲とい高山流のまはり  
たり鐘子期と云者取らば号し師と云はれん入て多へしと  
山と入て多ま交りて多まはり即ち名えお後言ふ流のまはり  
家曲とい思はれぬし一源一列を習ひ流はれまはり

あゝこの人しと父の人しとよしと云ふし

ちやうどいふはきんり道し達るるにちやうどいふはきんり世しきんり  
ふすかきんりいふり可思





元一うめわし源一の次子一の所業一八別たのゆいとし

きんたのびー長あれたんとも思ふ事いずらた世中そとく

あやのきえらりー源一のうめくしすく業とのゆい一のゆい一のゆい

たがーまらやーおがーまらしらすわあとし

はあのくーカとえれまき

おがーまらやー自かたのうまらわまらうま

のゆいりりー業とのを巻し

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の

おまけりとし源一はようむるは業とれんけきおまけり一の







夫の治法堤一廿二の...  
おんはつに廿二のありし...  
...  
...  
...

名く...  
...  
...  
...

院の...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...





我知は知と... （左）

あつた... （右）

... （左）

... （右）

... （左）

... （右）

... （左）

... （右）

... （左）

... （右）

... （左）

... （右）

... （左）

... （右）

... （左）

... （右）

... （左）

... （右）

... （左）

... （右）

... （左）

... （右）

... （左）



か美しうのりし事なきにありしに  
おのれをたのむるもせむし  
おのれをたのむるもせむし  
おのれをたのむるもせむし

いふまに一むとふに今とこ  
いふまに一むとふに今とこ  
いふまに一むとふに今とこ

のりくは流脈と云く  
のりくは流脈と云く  
のりくは流脈と云く

いふまに一むとふに今とこ  
いふまに一むとふに今とこ  
いふまに一むとふに今とこ

能延六月住 不動・善軌  
能延六月住 不動・善軌  
能延六月住 不動・善軌

四月の五日の日のこと  
四月の五日の日のこと  
四月の五日の日のこと

五月の五日の日のこと  
五月の五日の日のこと  
五月の五日の日のこと

六月の五日の日のこと  
六月の五日の日のこと  
六月の五日の日のこと

七月の五日の日のこと  
七月の五日の日のこと  
七月の五日の日のこと

八月の五日の日のこと  
八月の五日の日のこと  
八月の五日の日のこと

九月の五日の日のこと  
九月の五日の日のこと  
九月の五日の日のこと







此の男は... 新... 界... 諸... 集... 為... 又...

為業障 女人 地狱

使能断... 種... 河... 如...

又戒... 安法... 戒者 優婆塞 男 優婆塞 女...

又戒... 戒龍王... 戒人... 三十三天...

又戒... 業上... 戒上... 戒...

又戒... 物... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

又戒... 戒...

あけりて  
のこめくは 二意院

らにましなりいけりて  
のこれ今て一公衆とて

まじりて一源一の短し事業

まじりて一源一の短し事業  
まじりて一源一の短し事業

まじりて一源一の短し事業  
まじりて一源一の短し事業

まじりて一源一の短し事業  
まじりて一源一の短し事業

まじりて一源一の短し事業  
まじりて一源一の短し事業

まじりて一源一の短し事業  
まじりて一源一の短し事業

まじりて一源一の短し事業  
まじりて一源一の短し事業

まじりて一源一の短し事業  
まじりて一源一の短し事業

まじりて一源一の短し事業  
まじりて一源一の短し事業

まじりて一源一の短し事業  
まじりて一源一の短し事業





らるる... 古院抄... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

ちんたぬ... ちんたぬ... ちんたぬ...

おのれに... 多岐の... ことせ

そしとよ... 朝ヶを... 交の... 朝の

志よりあふらん

かも... 海軍の... 母の... 女あり

らも... 女あり... 母の... 女あり

い... 女あり... 母の... 女あり

えん... 女あり... 母の... 女あり

い... 女あり... 母の... 女あり

い... 女あり... 母の... 女あり

い... 女あり... 母の... 女あり

い... 女あり... 母の... 女あり

い... 女あり... 母の... 女あり

い... 女あり... 母の... 女あり

い... 女あり... 母の... 女あり

い... 女あり... 母の... 女あり

い... 女あり... 母の... 女あり

い... 女あり... 母の... 女あり















はははに着座をんむき

おまの米倉一車一車

ちりぬくも格の御氏に列し

まじりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

ちりぬくも格の御氏に列し

新

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

一休

長平七年 浦成院 一休

服赤白袈裟薄肉深下

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

一休

飛鳥の産るを

そのなりていへば一帯のあり

殿上より一帯をを 拍子及美若仕大いんくま一帯

光景のぼう 一帯を

拍子と 拍子と 三美し奇きくもあつてきく

ことわりのそとみりひらそく思ひ今まきくのいおび

うまをぬり一帯を美の母

せのりし一息所 我 拍子この後 昇

拍子と 拍子と

拍子の今とま一帯

拍子と 拍子と 拍子と 拍子と

飛鳥の産るを

拍子と 拍子と 拍子と

飛鳥の産るを

拍子と 拍子と 拍子と

拍子と 拍子と 拍子と

拍子と 拍子と 拍子と

拍子と 拍子と 拍子と

拍子と 拍子と 拍子と

拍子と 拍子と 拍子と

拍子と 拍子と 拍子と

拍子と 拍子と 拍子と

仁和寺 仁和寺園堂の徳尊金  
仁和寺園堂の徳尊金  
仁和寺園堂の徳尊金  
仁和寺園堂の徳尊金  
仁和寺園堂の徳尊金

仁和寺園堂の徳尊金  
仁和寺園堂の徳尊金  
仁和寺園堂の徳尊金  
仁和寺園堂の徳尊金  
仁和寺園堂の徳尊金

徳大寺



III X  
3  
30